資料①

第8回検討委員会に対する保護者等からの主な意見

1. 概要

1) スマート連絡帳によるアンケート

8月26日に開催した第8回各務原市学校適正規模・適正配置等検討委員会に関して、スマート連絡帳（保護者連絡アプリ）を通じて市内の小中学校児童生徒及び保護者、市内の未就学児の保護者に対してアンケートを実施しました。

表 実施概要

対象者	市内の小中学校児童生徒及び保護者、市内の未就学児の保護者
配信方法	スマート連絡帳（保護者連絡アプリ）
配布資料	・資料1「将来の学校の姿（再編案）」 ・資料2「市民説明会議事要旨」 ・資料3「ロードマップ案」
実施期間	令和8年9月3日～9月18日

アンケートではお住まいの小学校区について回答していただいた上で、第8回検討委員会での検討内容に対して意見や質問を募集しました。

表 設問内容

Q1-1.あなたのお住まいの小学校区を教えてください。	【自由記述】
Q2.ご意見、ご質問に関する資料を選択してください。	【以下の選択肢より選択（複数選択可）】 資料1「将来の学校の姿（再編案）」について 資料2「市民説明会議事要旨」について 資料3「ロードマップ案」について その他（学校再編にあたり配慮してほしい事項など）
Q3.選択した資料について、ご意見やご質問を記入してください。	【自由記述】

2. 集計結果

1）スマート連絡帳によるアンケート

第8回検討委員会の内容に関する意見や質問を資料ごとに要約・整理しました。

● 資料1「将来の学校の姿（再編案）」について

少子化や校舎の老朽化を踏まえ、義務教育学校化や学校再編の必要性について理解を示す意見が多くみられました。特に、教育環境の充実や小中一貫教育による教育効果に期待する声がみられました。一方で、学校統合による児童数の増加や施設規模への不安を懸念する意見や、中学校への進学による新たな出会いを大切にする意見がみられました。また、子どもたちを第一に考えるとともに、教職員や地域住民の意見を十分に反映しながら慎重に進めてほしいとの意見もみられました。

【主な意見】

・少子化が進む中、義務教育学校への再編は必要不可欠だと思います。統合することで、学校設備などのハード面、教師配置などのソフト面でより良い教育が受けられることを期待します。

・どの地域も平等に、義務教育学校化するという考えには賛成です。実際に他の多くの地域で、小中一貫校にしてメリットが多いとの実績があれば、検討する価値は大きいと思います。少子化は本当に深刻だと思いますが、時代に合った形で対応も変えていく必要があると思っています。

・将来に向けて再編していく中で、子供達の事を第一に考えたカタチで進めて頂けたら良いです。どんなカタチでもメリット・デメリットは必ずあるし、やってみて初めて分かる事もあると思うので、先延ばしにし過ぎないように進めて欲しい。現状ですでに困っている子供達もいるはずなので。

・まだどんなものになるのか、子ども達にとっては、小学校や中学校がいいのか、それとも小中一貫校がいいのか、やってみないと分からない。でも築年数や児童の減少から考えると、小中一貫校で賛成。小中一貫校だからこそ、できることを取り入れてほしい。

・校舎建替をする前に那加第一小と尾崎小が統合するとのことだが、人数が増えすぎて、校舎のキャパシティが心配である。その点は考慮できているのか。

・学校再編は少子化による校区の再編だと思っていたので、市内全てが小中一貫になるという案に驚いた。小学校から中学校に上がるときに、構成が変わらないのはリスクだと思う。新たな出会いの経験や、別の学校の雰囲気と混ざっていくのも良い体験となり、進路選択や進学にあたっても一つの助けになると思う。

・現行通りの関わりが増える9年間と生徒の関わりがずっと一緒の9年間では、経験が少ないと思う。いじめや不登校などが減少する側面があるかもしれないが、経験することを考えるとある程度の対人関係のストレスや課題解決能力は必要ではないか。
そういった意味では、小規模校への統合は賛成だが、中、大規模校は現行通りの方が良いのではないかと強く思う。

・子ども達が幸せに過ごせる小中一貫校になると良い。他市でも、小中一貫校があるが、子ども達だけではなく、現場で働く教師の声を踏まえ、学校の在り方を市民皆で考えられるとよい。地域を統合し、小中一貫という学校の変化だけでも子ども達は大変であり、それ以上に現場で働く教師は、激務となると思う。変化は大切であるが、変わらない学校の良さも大切にしていただきたい。何より、学校に関わる子ども達、教師、地域が幸せな気持ちになる学校になってほしい。

● 資料2「市民説明会議事要旨」について

義務教育学校化や９年制への移行については、教員の専門性向上や負担軽減、より良い教育環境の実現につながることへの期待が多くみられました。また、多様な人間関係の形成や学校環境の充実を期待する意見もみられました。一方で、学校規模の拡大による教員の目が行き届きにくくなることや、いじめ対応における配慮を求める声がいくつかみられました。また、猛暑・防犯面を踏まえたスクールバスの導入・拡充や自治会区域と学校区域の整合など、通学環境や地域との関係に配慮した学校再編を求める意見がみられました。

【主な意見】

・中学と小学校の教員免許を取得している先生が多いのはありがたい。再編成に向けて、先生たちの免許取得や研修の支援をしていただけるとより安心できる。小学校の先生には信頼感があるし中学の先生の専門性にも期待している。ぜひ先生方の負担軽減とともに前向きに取り組んでいただきたい。

・一貫校にすることで教員の負担が減り、質があがるのを期待したい

・グループ化している子たちが多く、我が子も度々悲しい想いをしている。多人数の学校と合併するのは環境や他の子達に慣れるのは大変かもしれないが、人数が多い分、気の合う子、遊んでくれる子も居るのではないかという期待はある。

・子どもたちが安全快適にのびのびと学習できる環境、親が安心して学校へ行く姿を見送られる環境を整えてもらいたい（登下校、授業、友達関係、学童）。

・中１ギャップを肯定的に捉えている意見もあったようだが、思春期の多感な時期でもあるため、小中一貫の方が、教師や先輩との関わりがスムーズに行くと思う。

・スクールバスについてなど、これから考えていくことが沢山あるが、よりよい学校がつくれるのではないかと期待できると思った。

・義務教育学校にすることは良いと思う。

・今後9年制への移行は必須であると思う。市民の声優先で決定することは少ないと思うため、移行期の混乱や子どもたちの支援も考慮して進めてもらえればよい。

・自治会活動の境界と、学校区域の境界が一致していないことへの違和感は共感した。そのズレの解消が今後の課題とも感じた。

・いじめが心配なので、教師の目が生徒に行き届きやすい環境になって欲しい。

● 資料3「ロードマップ案」について

学校再編や義務教育学校化の必要性をご理解いただくとともに、児童生徒の安全確保や教育環境の向上の観点から、老朽化した校舎の建替や再編を計画的に進めることへの期待が寄せられました。一方で、那加第一尾崎義務教育学校、鵜沼第三緑苑義務教育学校に関しては、早期の再編となることについて賛成的な意見のほか、十分な準備期間を設けるべきなど懸念を示す意見もみられました。また、通学距離の増加に対応したスクールバス等の移動手段の確保や、災害時の避難所機能への配慮を求める意見もみられました。

【主な意見】

・今後の児童数や学校ごとの築年数を考えて建て替え、再編成されていると思う。

・学校再編の方向性については、将来的な児童生徒数の減少や教育環境の充実を考えると、概ね賛成である。

・建物が老朽化しており、避難場所としても不安であるため、予定通りに建替を行っていってほしい。

・80年を目安に建替をするのは、子供たちの安全を守る為にも賛成である。

・緑苑小や、尾崎小など、すでに統合が必要な学校を少しでも早く統合してあげてほしい。現在、それらの学校に通っている子どもたちにとっては同級生が増えて良いことだし、今後の再編計画にとってもモデルケースになり、早めに問題点をあぶり出せるので、1日も早い統合を実施してほしい。

・小中一貫校になるのは良いことだと思う。災害時に公共の施設が避難所となり、老朽化が進んでいるなか、早期に建て替えていくことが災害面からも望ましいと思われる。

・小学校は早期統合とのことで3年後には実施予定であるが、2段階に分けて統合するのであれば、一層のこと義務教育学校への切り替えを進めた方がいいのではないかと感じた。

・尾崎小の人数減少のため統合は賛成であるが、令和11年は早すぎると思う。現時点で那加第一の人数も多いため、統合するなら那加第一の子を他の小学校に区分けした方がいい。

・統合するのは致し方ないが、2年後というのは早すぎると思う。緑苑小学校があるから、と引っ越しや家を建てた住人もいるのではないか。早くても6年くらいは周知徹底にかけるべきかと思う。

・全国的にみると、絶対に統合しなければならない程の少人数ではないのに、令和11年に統合ありきで話が進んでいる理由が知りたい。個人的には統合しなくても充実した小学校生活が送れると思う。

・学校の統廃合による義務教育学校化そのものに反対はしないが、場所の1本化により、通学距離がさらに遠くなる児童等を考えれば、スクールバスの導入（またはこれに代わるもの）とセットで進められるべきである。そのため、児童等の通学の足の確保についても導入までのロードマップを示されたい。

・建替および義務教育学校への移行の際に、在校生に負担のないように最大限の配慮をいただきたい。移行期間に通っていたために従来通りの活動が出来なくなるような事態は避けて欲しい。

・建て替えている間の授業が心配である。授業に工事の影響が少なからずあるのではないか。

● その他（学校再編にあたり配慮してほしい事項など）について

学校が遠くなることによる通学負担や、猛暑・豪雨・災害時等の安全確保への不安から、スクールバスの導入や送迎環境の改善を求める意見が多くみられました。また、現在の教育について、義務教育学校化する前から、小中一貫教育や小中学校の交流を求める意見もみられました。そのほかには、建替期間中の学校生活への負担軽減、支援学級や学童保育の受入体制、廃校後の学校施設の活用方法について説明を求める意見もみられました。

【主な意見】

・再編により、学校が遠くなった場合、低学年の子は、徒歩での通学が大変である。必ずスクールバスを運行して欲しい。熱中症や事故などが無いよう安全面を配慮していただきたい。

・少子化、建物老朽化などによる、学区集約や小中学一貫校については理解できる。遠方から通学するお子さんも増えるため、そこが心配である。先日の大雨警報や災害時などの緊急時の対応を考えてほしい。

・小中一貫校には賛成だが、自分の子どもが通う頃にはまだ再編しないため、その教育を受けられず残念に思う。小中学校の交流だけでも、もっと増やすなど早めに進めてもらえるといいと思う。

・稲羽東小は数年前から小規模校だが、今の通っている子どもたちは中学卒業まで何もなく過ぎていくことになる。再編するまでの間の取り組みは何もないのか。

・長期にわたる整備期間中の在校生たちへの負担が少しでも軽くなり、少しでもメリットを享受できるようになることを期待します。

・支援級および学童についてはどのようになる予定か。これまでと同じ数の教室を確保するか、増やす予定なのか知りたい。

・学童が6年生まで利用できなくなるのか気になっている。

・廃校にした後の各学校の使い道について教えてほしい。取り壊すにもお金がかかると思っている。

・八木山小校区の小中一貫校は賛成だが、鵜沼第一小敷地にて小中一貫校となった際に、八木山小学校や鵜沼中学校の校舎はどうなるのか。